



# 年頭のご挨拶



熊本県国民健康保険団体連合会  
理事長 大西 一 史

保険者の負託に忘えるため、  
国保・後期高齢者医療・介護保険  
各制度の円滑な運営に努めていく

明けましておめでとうございます。平成 28 年の年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

保険者の皆さま方におかれましては、新春を健やかに迎えのことに心からお慶び申し上げます。

また、日ごろから国民健康保険事業の運営に多大なるご尽力をいただき、心から敬意を表しますとともに、本会の事業運営につきましても格別のご理解とご協力を賜っておりますことに厚くお礼を申し上げます。

さて、国民健康保険制度は、誰もが、いつでも、どこでも保険医療を受けられる国民皆保険制度の最後のとりでであり、制度発足以来、国民の皆さまの健康を守る大きな支えとしての役割を担ってきております。

しかしながら、国保を取り巻く状況は、高齢化の進展による医療費の増嵩<sup>ぞうこう</sup>や、所得水準が低くなっている中での保険料（税）負担の重さなど、構造的な問題を抱えており、その財政運営は極めて厳しいものとなっております。

そのような状況の中、昨年 5 月 27 日に可決・成立した「持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律」では、医療保険制度の財政基盤の安定化に向けて、平成 30 年度から都道府県が市町村とともに国保運営を担うという半世紀ぶりの国保の大改革が決定されました。

国は、この 1 月に都道府県が市町村に示す「国保事業費納付金」や「標準保険料率」など財政運営の中核となる仕組みの詳細を提示することにしており、今後、各自治体では新国保制度の施行に向け急ピッチで準備作業が進められることとなります。

本会といたしましては、このような国の動向を注視しつつ、保険者の負託に応えるため、効率的・効果的な事業の改善に日々工夫を重ねるとともに、時代の変化に沿った効率的な組織体制の構築や業務環境の変化に対応できる広い視野を持った職員の育成を図ることにより、国保制度をはじめ、後期高齢者医療制度、介護保険制度等の円滑な運営に努めてまいりたいと考えておりますので、保険者の皆さまにおかれましては、今後とも本会に対しましてさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆さまのますますのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

平成 28 年 1 月

